



急性期からのシームレスな リハビリテーションをめざして

リハビリテーション科 吉田 園代

リハビリテーションは、病気やけがにより何らかの障害を持たれた方が、もう一度家庭に復帰し、社会に参加し、何らかの活動や役割を果たすことを目的にしています。近年、疾患の慢性化・障害化・高齢化に伴いリハビリテーションのニーズが益々高まっています。

リハビリテーション科では理学療法・作業療法・言語聴覚療法の三部門にて専門的な治療を行っています。

理学療法では、基本動作（寝返る、起き上がる、座る、立ち上がる、歩く）や移動動作獲得のために、運動療法や日常動作練習などを行います。

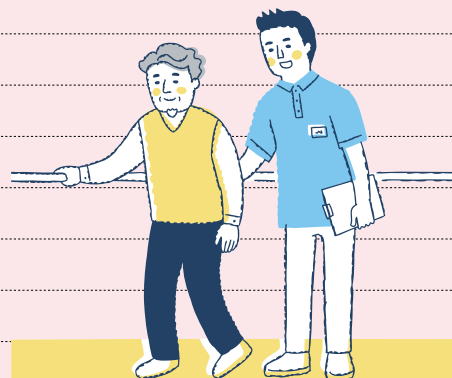
作業療法では、基本的動作を応用動作に広げるために、作業活動を主な治療手段として身体や精神機能回復を図ります。作業活動として、食事・排泄・整容・更衣などの日常動作を中心に手芸や知能・記憶・認知活動などを行っています。

言語聴覚療法では、ことばや聴こえなどのコミュニケーション障害や食べる機能の維持や回復に対して評価や治療を行います。

当院は、急性期医療を担う病院として、入

院前とできるだけレベルの低下が少ない生活ができるように早期リハビリテーションに力を入れております。患者さんの全身状態に留意し、離床を進め、新たな疾患や障害発症の予防などにも関与し、地域での生活を考えながらプログラムを構成していきます。また、状態によっては転院しリハビリの継続が必要な場合や地域生活でのサービスが必要な場合もあるため、各病棟の退院計画カンファレンスに参加し、切れ目のないリハビリが継続できるように情報共有しております。

患者さんとリハビリ目標について話し合い、その目標の共有継続のために、目標を記載した実施計画書をリハビリ実施機関に送付し、シームレスなリハビリを行える病院として取り組んでおります。



研修・講演・学習会のご案内



1. 地域連携症例検討会（ハイブリッド開催）

日時：11月10日（火） 19：00～20：00

場所：当院3階 講堂

内容：

1) 症例検討

『出血コントロール困難で緊急子宮全摘術を施行した一例』

産婦人科 高原 佳奈

2) ミニレクチャー

『頭痛の診かたと治療 ― 片頭痛を中心に』

脳神経内科 松本 星貴

頭痛は日常診療でよく遭遇する症状ですが、「いつもの頭痛だから」「とりあえず鎮痛薬で」と十分な評価や治療が行われないことも少なくありません。頭痛によって仕事や家事などの日常生活に支障をきたしている患者さんも多く、適切な診断と治療が重要です。一方、頭痛の中には緊急の対応を要する疾患が隠れていることもあり、危険な二次性頭痛を見逃さないことが診療の第一歩となります。

本講演では、頭痛の初期評価から治療、専門医への紹介まで、日常診療で押さえておきたいポイントを解説します。まず、頭痛の発症様式や随伴症状、神経学的所見から二次性頭痛を疑うポイン

トを整理します。続いて、片頭痛、緊張型頭痛、群発頭痛の特徴と鑑別について概説し、特に片頭痛を見逃さないための問診のポイントを紹介します。

治療については、急性期治療薬の選択や適切な服用タイミング、予防療法を検討する目安を解説します。また、市販薬を含む鎮痛薬の使用過多による頭痛や、診断・治療効果の評価に役立つ頭痛ダイアリーの活用についても取り上げます。「とりあえず鎮痛薬」から一歩進み、患者さんの生活の質の改善につながる頭痛診療について考えたいと思います。

予告 12月の予定は下記のとおりです。ご参加をお待ちしております。

※例年12月は拡大版として開催しておりますが、今年度は通常の形式での開催となります。

日時：令和8年12月8日（火） 19：00～20：00（ハイブリッド開催）

場所：当院3階 講堂

内容：①症例検討 1例（担当）放射線治療科
②ミニレクチャー 1題（担当）形成外科

2. ダイアベティス研究会（旧：糖尿病研究会）

日時：令和8年11月19日（木） 17：30～18：30

場所：当院3階 講堂

テーマ：運動療法のメカニズム、
糖尿病を改善するための運動

講師：当院理学療法士



作：病院ボランティア 篠崎 佳子

患者 アドボカシー室 のご紹介

患者さんやご家族の皆様が安心して、安全な医療を受けていただくために
ご意見・ご要望・ご不満などを医療者に対して伝えることができるように、医
療メディエーターを配置しています。

医療メディエーターとは、患者さんやご家族の感情や思いを受け止め傾聴・
共感し、信頼を築きながら問題解決に努める「援助者」です。まずは、お気持
ちや思いを真摯に受け止め、医療者と患者さんやご家族の架け橋となり、双方
が治療や検査に同じ目標でむかえられるように問題の解決に向けて、お手伝い

します。

患者アドボカシー室の入口ドアは、病院開設曜日の月曜日から金曜日は開放し入りやすいように努めて
います。「直接は言い難いことだからここに来たよ」「忙しそうで聞きたいことがあったのに聞けなかつ
たから」「伝えたけれど分かってくれないようで不安に思って」と語りに来られる方もいます。小さ
な応接室ですが、ゆっくりお話を聞くことができます。

医療メディエーターは勝手に判断したり、代弁したりする立場ではありませんので、双方の思いのズレ
や、怒りや不信に繋がった言動などを丁寧に確認する時間をいただきます。お互いの思いを認めあい、関
係の再構築ができるように対話を促進するようこころがけています。

医師不在のお知らせ

※外来担当日の休診のみ掲載

11月

科 名	医師名	不 在 日	科 名	医師名	不 在 日
外 科	宮 下 知	6日、27日	小 児 科	和 田	4日、11日
	羽 田	6日		仲 岡	16日
	加 納	6日		今 村	2日、24日
泌 尿 器 科	児 玉	19日		中 橋	6日、12日
	高 瀬	12日、13日	歯 科 口 腔 外 科	朽 名	6日
整形外科・関節再建外科	山 室	5日、26日		石 坂	2日
脳 神 経 外 科	毛 利	20日	皮 膚 科	大 石	2日
	山 野	2日	精 神 科	長谷川雄	27日
呼吸器・血管外科	横 山	18日、19日		島 滝	11月休診のため、代診：宮津

※その他、急に不在となることがありますので、ふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。

TEL 076-422-1112(代)内線2168

編集後記

今年の夏も猛暑日が続きましたが、8月下旬からは秋雨前線の発達や相次ぐ台風、線状
降水帯の発生など、これまでにない異例の天候が続きました。全国各地で大雨特別警報が
発表され、連日のように甚大な被害や気象ニュースが報道されています。

気象庁が発表した線状降水帯の直前予測の精度は、約30%にとどまるそうです。予測
の難しさは、大気中の水蒸気の分布や量の把握が困難なこと、また局地的な現象でそのメ
カニズムが十分に解明されていないことに起因しているようです。

8月下旬の大雨では、ここ富山県内でも大きな被害がもたらされました。幸い我が家は
当日朝に子どもの学校が休校になる程度でしたが、被災された方々が1日も早く平穏な日
常生活を取り戻せるよう、心よりお祈り申し上げます。

今後もしばらくは、天気予報と向き合う日々が続くそうです。

臨床検査科 橋本 奈津子



「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。
送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1112 (代) / FAX 076 (422) 1154

メールアドレス fureairenkei@tch.toyama.toyama.jp

Instagram でも
情報発信中！



ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/> がん何でも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp